



Title	森沢三郎教授退官記念特集によせて
Author(s)	甲元, 健雄
Citation	大阪外大英米研究. 1966, 5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/98958
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

森沢三郎教授退官記念特集によせて

甲 元 健 雄

森沢三郎教授は、昨年7月学長任期満了をもって御退官になった。われわれは、森沢先生が再び教室に戻られ、御指導頂けるものと楽観していたのであるが、学長任期満了と同時に退官という強い御意志を示され、われわれの再三再四の懇願も、先生の御齟齬を促すことができなかった。われわれとしても先生の厳然たる御主義を理解できないわけでもなく、むしろそれを敬重し、襟を正して先生を御送りしたのであるが、先生が去られた後の寂莫感はおおいがたい。

森沢先生は、1925年（大正14年）本学の前身大阪外国語学校を御卒業と同時に、母校に奉職され、爾来40年の間母校の発展と英語学科の充実のため一意尽瘁されたが、その間幾多の人材を世に送られ、先生の教えをうけた人びとは、現在国の内外を問わず、実業界、政界、学界、教職の分野で英語を通して目覚しい活躍を続けている。教室のわれわれも永年にわたって、先生の御薫陶をうけてきたが、本誌（1959年創刊）および The Reeds（1955年創刊—わが国古今の名作の翻訳と研究解説を海外に紹介することをその目的とする）の発行も、先生の御発意によるものであった。この御恩に報いるためにも、今後一層の研究を積む覚悟を新たにするものである。

先生は心から英語を愛され、「英語を通じて森羅万象を」といった御研究や御指導であったと拝察してきたが、その研究業績もこれを如実に物語っている。先生はまた英国史、とくにその憲政史の御造詣も深くこの分野でも先生の博識は専門家の域に達しているといってよいであろう。歌人でもあられる先生は、わが国の古典にも大きな関心を示され、その翻訳は日本語臭の痕跡もとどめず、洒脱なものとして定評がある。イギリス的ヒュモアを充分身につけら

れ、ヒュモアを混えて開陳される透視的な物のみかたは、すべての問題の核心をつくものである。

戦後は社会的必要もあって商業英語を開講されたが、主として semantics を軸として、小は国際商業から大はあらゆる人間関係、国際関係におよぶ実に視野の広いものであった。最近数年は学長という激務につかれながらも英語学科の講義を一部担当してくださったし、さらに「実用英語ハンドブック」も出版された。名目のみの監修者ではなく、みずからも執筆され、すべての原稿に徹底的に加筆されたということである。先生の学問的良心と情熱に頭が下るのみである。

先生の御退官にあたり、われわれの感謝の微意を表わすため、ささやかな本誌5号をその記念特集として先生に捧げることをお許しねがい、先生の御業績を讃えることを教室一同の光榮とするところである。